

比較家族史学会

## 会報 比較家族史 75

事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F  
(株)毎日学術フォーラム内 比較家族史学会 ☎:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555  
E-mail:maf-jscfh@mynavi.jp 郵便振替 00130-4-25222(名義 比較家族史学会)

### 2020年 比較家族史学会 第67回 秋季研究大会のご案内

【日程】 2020年10月24日(土) 11:00-16:30

【会場】 日本大学

【参加費・申し込み】 無料・事前に専用フォームから申し込み

専用申し込みフォーム URL (<https://onl.tw/fjPgzGf>)

参加申し込み締め切り 2020年10月17日(土)

【開催方法】 WEB会議サービス(ZOOM)によるオンライン開催

【参加方法】 申込者に大会前にZOOM参加に必要なURL等および  
レジュメ入手方法を連絡

#### 【プログラム】

11:00~11:10 開催挨拶 会長 小池 誠(桃山学院大学)

11:10~12:30 自由報告

司会 中村 真理子(国立社会保障・人口問題研究所)

報告者 落合 恵美子(京都大学)・森本 一彦(高野山大学)・

平井 晶子(神戸大学) 日本家族と「アジアの家族と親密圏」

12:30~13:30 お昼休み

13:30~16:30 シンポジウム 司会 小浜 正子(日本大学)・落合 恵美子(京都大学)  
東アジアはどこまで「儒教社会」か?—琉球とベトナムを中心に

13:30~13:50 趣旨説明 小浜 正子(日本大学)

東アジアの「儒教社会」の比較へ向けて—「家系」概念を中心に

13:50~14:20 武井 基晃(筑波大学)

位牌継承を儒教から考える—沖縄の4つの禁忌を中心に

14:20～14:50 桃木 至朗 (大阪大学)

中近世ベトナムにおける「家」と「族」

14:50～15:10 休憩

15:10～16:20 ディスカッション

16:20 閉会挨拶 李 璟媛 (岡山大学)

### 【シンポジウムの趣旨】

今年の秋季研究大会では、今春の大会シンポジウムとして予定されていて、来春に延期になった「東アジアはどこまで「儒教社会」か？—チャイナパワーとアジア家族」のプレシンポも兼ねて、東アジアの「儒教社会」としての性格を議論します。日本・大陸中国・朝鮮・ベトナム・台湾などの東アジア社会は、「儒教文化圏」とまとめられることも多いですが、そのじつそれぞれの社会では、正統な儒教の考え方からかなり離れた習慣が維持されており、しかも場合によってはそれが「儒教的」だと認識されていたりすることさえあります。「儒教文化圏」の社会とは実際のところどのようなものであり、それが如何にして形成されてきたのかを、その社会の側の要因に注目しつつ、比較史的視点をもって家族をめぐる諸問題から考えてゆきたいと思います。今回の秋季研究大会では、とくに「家系」をめぐる問題を中心に、琉球とベトナムについての個別報告を踏まえて、各地域の状況を議論します。父系血統を重んじるといわれる「儒教文化圏」は本当に父系社会なのか。そうである場合は、何時からどのようにしてそうなったのか。あるいは、双系的または双方向的なつながりは社会の中でどのような意味を持つのか。そもそも「父系制」と各社会で考えられている内容は、具体的にはどのようなことなのか。こういった問題について、活発な議論ができればと期待しています。

(小浜正子)

【大会運営委員】小浜正子 (日本大学) ・落合恵美子 (京都大学) ・野辺陽子 (大妻女子大学) ・中村真理子 (国立社会保障・人口問題研究所) ・李璟媛 (岡山大学)

## 2020年度比較家族史学会総会報告

### 1. 新会長の承認

小池誠会員(桃山学院大学教授)を新会長とする(任期3年)。2020年3月7日開催の選挙理事による理事会において選任された。

### 2. 新理事会

新理事会は、20名の選挙理事と10名の推薦理事とする。任期は2020年4月1日から2023年3月31日までである。

#### ◇選挙理事(20名、任期:3年)

李璟媛、宇野文重、大野啓、岡田あおい、落合恵美子、小池誠、小島宏、賽漢卓娜、坂田聡、瀬地山角、田間泰子、床谷文雄、中島満大、平井晶子、牧田勲、村上一博、森本一彦、柳谷慶子、山田昌弘、米村千代

#### ◇推薦理事(10名、任期:3年)

加藤彰彦、小谷眞男、小浜正子、椎野若菜、高橋一彦、高橋基泰、野辺陽子、中村真理子、三成美保、渡邊泰彦

### 3. 2019年度会計報告

「2019年度決算報告書(一般会計)」および「2019年度決算書(特別会計)」が、会計監査である森謙二会員と藤井勝会員からの決算書に問題がないという報告を受けて、7月4日開催の理事会にて承認された。

### 4. 2020年度予算

「2020年度予算案」が7月4日開催の理事会にて承認された。

## 新会長挨拶

小池誠（桃山学院大学）

第11代の会長を務めることになりました小池誠です。これから3年間、みなさまのお力を借りて、比較家族史学会の発展と、家族史研究の活性化のために少しでも貢献したいと考えています。

振り返りますと、私が入会したのは1990年です。前会長の落合先生や歴代の会長の方々と比べて新参者だと思います。本学会が創立したのが1982年ですので、できたばかりの学会のエネルギーは知らない世代です（ただし実年齢はもうすぐ前期高齢者です）。法律学・社会学・文化人類学・民俗学・歴史学など諸分野の研究者が学問の境界を飛び越えて参加し活発に議論を交わす、学際的な学会の良さを感じながら、入会以来、多くのことを学んできました。その恩返しが少しでもできればと思い、これから会長としての務めを果たしていきたいと思えます。

学会関係の出版物に最初に関わったのは、1996年に弘文堂より出版された『事典家族』の項目執筆でした。そのとき担当したのは、「交叉イトコ婚」という社会人類学らしいが、とてもマイナーな項目でした。もともと東部インドネシアのスンバ島をフィールドとする社会人類学者でしたが、この学会で出会った多様な分野の研究者から大きな刺激を受け、自身の学問領域を少しずつ広げていくことができました。同じく比較家族史学会編集で弘文堂より2015年に刊行した『現代家族ペディア』では、編集委員として、おもに「第11章 グローバリゼーションと家族」を担当しました。そして今は日本経済評論社から2020年内の刊行を目指して『シリーズ家族研究の最前線』の最後となる『⑤ 世代間関係（仮題）』の編集に悪戦苦闘しています。このように自身と比較家族史学会との関わりを振り返ると、一つの学問領域に閉じこもるのではなく異種格闘技を展開しながら、「家族」という捉えどころがないが、人間の本質に関わるテーマに取り組むことの重要性を強く感じています。

3年間の任期中、年2回の研究大会の開催と年報『比較家族史研究』の発刊を通常通り進めると同時に、新たに次のような3つの課題を重点目標に掲げて会長として尽力したいと思います。

### (1) 若手研究者を中心とする学会活動の活性化

入会した大学院生など若手研究者を、一人でも多く業績をもった研究者として教育・研究機関に送り出すことが、学会の使命の一つだと考えます。比較家族史学会という特性を活かして、さまざまな分野の研究者に研究発表と議論の場を提供できるよう、さらに学会活動を活性化させます。

## (2) 海外の学会との継続的な学術交流

落合前会長は任期中にソウルと北京で学会を開催し、海外の学会との学術交流を格段に進展させました。そのなかで培った国際的ネットワークを継続し、学術交流をさらに深化させます。その一環として、学会ホームページの英語版に取り組みたいと思います。

## (3) 社会的発信力の強化

家族をめぐる諸問題について、会員がそれぞれの研究分野から社会的発信ができるように学会全体として体制作りを進めていきます。その一環として学会ホームページをさらに充実させ、また5巻でいちおう終了する『シリーズ家族研究の最前線』に続く学会として研究成果の出版を目指したいと思います。

新体制は新型コロナウイルスの世界的な流行とともにスタートすることになりました。残念ながら2020年度の春季研究大会は翌年に延期が決まり、その結果、総会がオンラインで開催されました。すべてが初めて経験することばかりです。また、大学ではオンラインによる授業と会議が日常化して、誰もが戸惑いと不安のなかで一日一日を過ごすことになりました。このような状況下で、フィールドでの調査はきわめて困難になっています。ただ、このような困難に直面しても、私たち研究者は立ちすくんでいる訳にはいきません。2020年度の秋季研究大会はオンラインで開催されます。学会員が直接、顔を合わせて、議論できないのは残念ですが、高い交通費を払わずに、自宅で気軽に学会に参加できるというのはオンライン開催の利点でもあります。上で課題として掲げた「学会活動の活性化」も「海外との学術交流」も、オンラインによる研究会(Webinar)を企画すれば、研究費に恵まれていない若手研究者も発表しやすい、議論に参加しやすい環境作りが可能になります。コロナとともに新しい研究活動と知的コミュニケーションのスタイルを一つずつ模索していく時代だと思います。

学会員のみなさま一人一人のご協力を得て、この困難を乗り越え、比較家族史学会の発展に力を尽くしたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

## 新理事会

総会において小池誠会長が承認されました。新理事会は、下記の通りです。任期は3年間で、2023年3月末までです。

【会 長】小池誠（桃山学院大学）

【副 会 長】山田昌弘（編集担当・中央大学）、床谷文雄（企画担当・奈良大学）、  
平井晶子（庶務担当・神戸大学）

【庶務委員会】平井晶子（委員長・神戸大学）、中島満大（副委員長・明治大学）、  
森本一彦（高野山大学）

【企画委員会】李璟媛（委員長・岡山大学）、野辺陽子（副委員長・大妻女子大学）、  
宇野文重（尚綱大学）、落合恵美子（京都大学）、小浜正子（日本大学）、  
坂田聡（中央大学）、瀬地山角（東京大学）、高橋基泰（愛媛大学）、  
中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所）、三成美保（奈良女子大  
学）、渡邊泰彦（京都産業大学）

【編集委員会】田間泰子（委員長・大阪府立大学）、牧田勲（副委員長・摂南大学）、  
岡田あおい（慶應義塾大学）、加藤彰彦（明治大学）、椎野若菜（東京外国  
語大学）、村上一博（明治大学）、柳谷慶子（東北学院大学）、米村千代  
（千葉大学）

【渉外委員会】小島宏（委員長・早稲田大学）、賽漢卓娜（副委員長・長崎大学）、  
小谷眞男（お茶の水女子大学）、高橋一彦（神戸市外国語大学）

【HP委員会】大野啓（委員長・佛教大学）、森本一彦（副委員長・高野山大学）

【会計監査】藤井勝（神戸大学）、高井康弘（大谷大学）

【顧問】森謙二（茨城キリスト教大学）

## 委員会報告

### 【編集委員会】

①『比較家族史研究』について

第34号を今春に刊行した。現在、第35号の編集作業中で、特集として2019年秋季大会（於中国）の報告内容から、数本を掲載する予定である。

## ②『比較家族史研究』投稿規程について

来年に原稿を募集する第36号から、投稿規程を改定し、原則として電子ファイルでの原稿提出とする。なお、電子ファイルでの提出が困難な会員には、適宜、編集委員長にご相談いただくことを周知する。

## 理事会議事抄録

理事会が、2020年7月4日（土）にオンラインで開催された。

### 1. 庶務委員会

#### ①2019年度決算

☆一般会計一般部で18万円の収入の減少があり、その主たる原因として会費の納入率が下がっているとの説明があった。

☆支出については、中国での大会運営費として通常15万円のところ、30万円を計上したが、実際には費用はほとんどかからなかった。

☆特別会計におけるシリーズの出版助成による支出について説明があった。

#### ②2020年度予算

☆2020年度春季大会は延期となったが、会計の健全性を担保するため、大会運営費15万円を計上している。

☆会報を印刷せずにHPにアップすることにより7万円の削減になった。

☆新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて、諸雑費として5万円を計上した。

#### ③会員の入会・退会・種別変更について

☆2019年度に19名の入会、13名の退会があった。

☆会費納入状況について、1年未納者が42名、2年未納者が10名、3年未納者が35名いることが報告された。また3年未納者については、次から雑誌を送らないという措置をとっているが、未納者に対して再度意志確認をするとの報告があった。

## 2. 編集委員会

### ①『比較家族史研究』第35号編集状況について(2020.7.4 現在)

☆特集、投稿、書評・紹介などの編集状況の報告があった。

### ②投稿規定の改定について

☆投稿規定の改定について、2021年の投稿募集より、電子ファイル（MS-word もしくは PDF）を送信することが提案され、承認された。また電子ファイル以外での対応については、編集委員長に相談することも可能とすることも周知することになった。

### ③『比較家族史研究』第35号の企画について

☆第36号の「特集」企画については、秋季大会に基づく構成が難しいため、編集委員会で企画を立てる必要があることが報告された。

## 3. 企画委員会

### ①今後の大会について

☆2020年秋季大会について、小浜先生を中心に日本大学(10月24日(土))で開催することが報告された。

☆2022年度春季研究大会は明治大学(大会運営委員長 中島満大)で開催されることが承諾された。

☆2023年度春季研究大会については、大妻女子大学にて、大会運営委員長を野辺陽子先生にお願いして開催してはどうかという提案があり、承認された。また2022年度春季研究大会と2023年度春季研究大会がともに関東地方での開催になったことで、秋季研究大会を関東地方以外で開催するなどの対応についても検討されることになった。

☆2022年度春季研究大会が学会の40周年になるため、記念として公開シンポジウム、記念講演などのイベントを、企画委員会を中心として検討することになった。

### ②今後のシリーズ出版について

☆シリーズ家族研究の最前線の第5巻「世代」が2020年刊行予定であることが報告された。

☆現在のシリーズ家族研究の最前線の刊行後、出版計画について検討した。



#### 4. 渉外委員会

##### ①基礎法学シンポジウム

☆2020年7月に開催予定だった基礎法学シンポジウムが延期になり、2020年10月31日オンラインで開催することになったことが報告された。

#### 5. HP委員会

##### ①バックナンバーの公開

☆HPでは23号まで公開、24号からJ-Stageの公開していることを周知すること、また論文以外の書評などの公開についても検討していることが報告された。

##### ②会報のバックナンバーに関するお願い

☆会報のバックナンバー公開について、57～59号、61～67号が欠号になっているため、会員へ情報提供をお願いすることになった。

##### ③英文HPについて

☆ホームページ構成を検討した後で、日本語原案の作成し、翻訳していく予定であることが報告された。